



平成21年5月12日

## 核融合エネルギーの実現に向けた「幅広いアプローチ活動」に関する 第5回運営委員会 ～日・欧共同プレスリリース～

5月12日（火）に青森県六ヶ所村にて開催された、「第5回幅広いアプローチ運営委員会」の日・欧共同プレスリリースについて、別添のとおりお知らせします。

〈同時配布：青森県政記者会、三沢市政記者会、茨城県政記者クラブ〉

### 1. 概要：

本運営委員会は、「幅広いアプローチ協定<sup>\*</sup>」に基づき設立された、日欧の代表からなる組織であり、幅広いアプローチ活動の実施に関する全般的な指導及び監督について責任を負うものです。原則として年2回、日欧において交互に開催されます。

今回の運営委員会では、BA活動の新たな拠点である国際核融合エネルギー研究センター内管理研究棟において開催され、IFMIF/EVEDA、IFERC、サテライト・トカマク計画の3つの事業（各事業の詳細については参考資料を参照）について、

- ・IFMIF/EVEDAでは、六ヶ所サイトにおける加速器棟の建設の進展

- ・IFERCでは、高性能計算機の技術仕様の作成の進展

- ・サテライト・トカマク計画では、超伝導コイルを製造するための施設の設置等のそれぞれの事業の進展について確認が行われるとともに、各事業の事業計画及び2008年年次報告が承認されました。

なお、次回第6回運営委員会は、平成21年12月4日にイタリア・パドヴァ市にて開催されることが決定いたしました。

※正式名称：核融合エネルギーの研究分野におけるより広範な取組を通じた活動の共同による実施に関する日本国政府と欧州原子力共同体との間の協定

### 2. 出席者：

（日本）櫻井 繁樹 文部科学省大臣官房審議官（研究開発局担当） 他

（欧州）オクタヴィ・キンタナ＝トリアス 欧州委員会研究総局エネルギー局長 他

### 3. 添付資料：

①共同プレスリリース（英文、仮訳）

②参考資料（幅広いアプローチ活動の概要）

〈担当〉 研究開発局 研究開発戦略官付  
研究開発戦略官 千原(内線 4550)  
企画係長 神部(内線 4559)  
電話：03-5253-4111（代表）  
03-6734-4559（直通）

**Press Release**  
**5<sup>th</sup> meeting of the Broader Approach Steering Committee**  
**Rokkasho, 12 May 2009**

Today (12 May 2009), representatives of EU and Japan met at the International Fusion Energy Research Centre in Rokkasho, Aomori, Japan, the newly established base for the Broader Approach Activities.

The Broader Approach Activities aim at supporting the ITER project and the early realization of fusion as a clean and sustainable source of energy for peaceful purposes. They comprise the following three large research projects to be jointly implemented by EU and Japan:

1. "IFMIF/EVEDA", to prepare for the construction of a materials test facility for future fusion reactors;
2. The International Fusion Energy Research Centre (IFERC);
3. The Satellite Tokamak Programme JT-60SA, a major upgrade of the tokamak JT-60

The working site for IFMIF/EVEDA and IFERC is located in Rokkasho, the site of the Satellite Tokamak Programme is located in Naka.

The three Projects reported major progress during 2008 as well as ambitious plans for future activities:

- The advancement of the construction of the Accelerator building at Rokkasho site, the fabrication of lithium loop facility, the test of high flux modules, the development of accelerator components and the update of the Project Plan were particularly noteworthy for the IFMIF/EVEDA project.

For IFERC, the development of the technical specifications of the high performance computer is progressing according to plans while taking into consideration the needs of European and Japanese researchers.

- As for the Satellite Tokamak Programme (JT-60SA) Project, major design and procurement activities have now commenced with facilities for manufacturing superconducting coils being established on the JAEA Naka site.

The Steering Committee welcomed Belgium as a new active participant to the ongoing European effort in the Broader Approach activities, in particular as concerns the IFMIF/EVEDA project.

The Steering Committee expressed its deep appreciation for the support provided by the Aomori prefecture and the Rokkasho village with regard to the international educational program and lifestyle support for the international teams of the Broader Approach Activities.

The next meeting of the Steering Committee will take place In Padova (Italy) on the 4<sup>th</sup> of December 2009.

共同プレスリリース（仮訳）  
第 5 回幅広いアプローチ運営委員会  
2009 年 5 月 12 日、六ヶ所村

本日（2009 年 5 月 12 日）、青森県六ヶ所村において、幅広いアプローチ（BA）活動のために新たに設立された拠点である国際核融合エネルギー研究センターにおいて、日本と欧州の代表団は会合した。

BA 活動は、イーター（ITER）計画を支援するとともに、平和目的のクリーンで持続可能なエネルギー源としての核融合の早期実現を目的とする。BA 活動は、日欧により共同実施される次の 3 つの大きな研究事業から成る。

1. 将来の核融合炉のための材料試験施設の建設準備を行う「国際核融合材料照射施設の工学実証及び工学設計活動（IFMIF/EVEDA）」
2. 国際核融合エネルギー研究センター（IFERC）
3. JT-60 トカマクの大規模改修である、サテライト・トカマク計画 JT-60SA IFMIF/EVEDA 及び IFERC のサイトは、六ヶ所村に位置し、サテライト・トカマク計画のサイトは、那珂市に位置する。

3 つの各事業は、2008 年の主要な進展と、将来の活動に対する意欲的な計画を報告した。

- IFMIF/EVEDA 事業については、六ヶ所サイトにおける加速器棟の建設の進展、リチウムループ設備の製作、高中性子束モジュールの試験、加速器構成機器の進展、及び事業計画の改訂が、特に注目に値した。
- IFERC 事業については、日欧の研究者の要求を考慮しつつ、高性能計算機の技術仕様の作成が、計画に従って進められている。
- サテライト・トカマク計画（JT-60SA）事業については、主要な設計及び調達活動が開始されるとともに、超伝導コイルを製造するための施設が JAEA 那珂サイトに設置された。

運営委員会は、BA 活動において行われている欧州の取り組み、特に IFMIF/EVEDA 事業に対して、新たに積極的に参加したベルギーを歓迎した。

運営委員会は、BA 活動の国際チームに対する国際教育プログラム及び生活支

援に関して、青森県及び六ヶ所村により提供されている支援に対して深い感謝の意を表した。

運営委員会の次回会合は、2009年12月4日にパドヴァ（イタリア）において開催される。

## 核融合エネルギーの実現に向けた「幅広いアプローチ活動」について

### 1. 概要

幅広いアプローチ（BA：Broader Approach）活動は、核融合エネルギーの早期実現を目指して、ITER計画を支援するとともに、実験炉ITERの次の発電実証を行う原型炉に向けた先進的核融合研究開発を行う日欧の国際共同研究開発プロジェクトであり、以下の3事業から成る。

- ・ **国際核融合材料照射施設に関する工学実証及び工学設計活動**  
**(IFMIF/EVEDA)：青森県六ヶ所村**

原型炉に必要な材料の開発を行う国際核融合材料照射施設（IFMIF）の将来の建設に向け、その建設判断に必要なデータの取得、構成設備の安定的運転の実証及びIFMIFの工学設計を実施。

- ・ **国際核融合エネルギー研究センター（IFERC）：青森県六ヶ所村**

原型炉の概念設計、ITERの遠隔実験及び核融合計算シミュレーション研究等を実施。

- ・ **サテライト・トカマク計画：茨城県那珂市**

臨界プラズマ試験装置JT-60を超伝導化改修し、サテライト・トカマクとしてITERの運転シナリオの検討や先進的なプラズマ物理研究等を実施。

### 2. これまでの経緯

H19. 6. 1	幅広いアプローチ協定発効 日本側実施機関として日本原子力研究開発機構を指定
H19. 6. 21	<u>第1回幅広いアプローチ運営委員会開催（東京）</u> ・各事業長の任命 ほか
H19. 7. 3	国際核融合エネルギー研究センター開所式
H19. 11. 15	<u>第2回幅広いアプローチ運営委員会開催（西・バルセロナ）</u> ・各事業の事業計画の承認 ほか
H20. 3	建屋建設工事契約 機器製作等調達契約開始
H20. 5. 15	<u>第3回幅広いアプローチ運営委員会開催（青森県六ヶ所村）</u> ・ITER計画参加他極のBA活動参加のためのガイドラインを策定 ほか
H20. 12. 10	<u>第4回幅広いアプローチ運営委員会開催（独・カールスルーエ）</u> ・各事業の2009年作業計画の承認 ほか
H21. 4. 10	国際核融合エネルギー研究センター管理研究棟完成記念式典



平成 21 年 6 月 8 日

## 第 4 回 ITER 理事会の開催について

第 4 回 ITER 理事会を 6 月 17～18 日に、茨城県水戸市で開催いたしますので、お知らせします。

(同時配布：茨城県政記者クラブ、青森県政記者会、三沢市政記者会)

1. 日時：平成 21 年 6 月 17 日（水）10：00～18：15（1 日目）  
18 日（木） 9：00～13：10（2 日目）
2. 場所：ホテルテラスザガーデン水戸 3 階「シーブリーズ」（水戸市宮町 1-7）
3. 議題（予定）：
  - (1) 開会挨拶（議長、茨城県知事）
  - (2) ITER 機構活動報告
  - (3) 諮問委員会等からの報告
  - (4) ITER 計画ベースライン文書<sup>注)</sup>
  - (5) 2008 年 ITER 機構財務状況報告
  - (6) ITER 機構の運営評価の実施要領案
  - (7) その他

注) 2001 年に承認された ITER 最終設計報告書について、サイト要件適合性、技術進歩、ITER 性能の確実性の向上等の観点から、ITER 機構が設計レビューを実施し、設計仕様等の概要をまとめた文書。
4. 参加予定者：別添資料 1 のとおり
5. 取材要領：別添資料 2 のとおり
  - (1) 理事会 1 日目(17 日)について開会挨拶のみ撮影が可能です。
  - (2) 理事会終了後(18 日)に開催結果を当省よりプレスブリーフィングを行います。
  - (3) 理事会終了後(18 日)に行うサイトツアーについて撮影のみ可能です。
6. その他：「ITER 計画」の概要については、文部科学省ホームページ ([http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shinkou/iter/main.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/iter/main.htm)) をご参照下さい。

<担当> 研究開発局 研究開発戦略官付  
専門官 山本日出夫（内線 4551）  
専門職 佐々木敬一（内線 4553）  
電話：03-5253-4111（代表）  
03-6734-4559（直通）

## 第 4 回 ITER 理事会出席予定者

(平成 21 年 6 月 8 日現在)

### (1) 議 長

Llewellyn=Smith (ルウェリン=スミス)

欧州原子力共同体核融合計画諮問委員会 (CCE-EU) 議長

### (2) 各極代表者等

日 本：坂田 文部科学審議官 ほか

欧 州：ロドリゲス 欧州委員会研究総局長 ほか

中 国：曹 科学技術部副部長

インド：グローバー 原子力庁政策部長 ほか

韓 国：キム 教育科学技術部第 2 次官 ほか

ロシア：ボロフコフ ロシア連邦政府国防産業委員会機関長 ほか

米 国：シナコウスキー エネルギー省科学局核融合エネルギー科学課長 ほか

I T E R 機 構：池田 機構長 ほか



## 取材要領について

### 1) 頭撮り (1日目; 冒頭)

理事会の撮影は、6月17日(水)の冒頭(開会挨拶のみ)に可能です。撮影等を希望される場合は、6月12日(金)17:00までに別紙「取材申込書」に必要事項を記載の上、研究開発局研究開発戦略官付(FAX:03-6734-4164)までご登録下さい。当日は、社名入りの腕章を着用し、9:45までに会場前(ホテルテラスザガーデン水戸3階「シーブリーズ」ラウンジ)に集合して下さい。

### 2) プレスブリーフィング (2日目; 理事会終了後)

理事会終了後、16:30を目処にホテルテラスザガーデン水戸5階「ローズウッド」にて、ITER機構及び文部科学省から開催結果について説明を行います。参加を希望される場合は、上記「取材申込書」にてご登録下さい。

### 3) 共同プレスリリースの発表

理事会終了当日中(18日)、または翌19日に理事会共同プレスリリース(仮訳付)を配布する予定です。

### 4) サイトツアーの撮影 (2日目; 理事会終了後)

理事会終了後、各極の希望者を対象に原子力機構那珂核融合研究所の見学会を実施します。現地到着は15:30頃を予定しております。撮影を希望される場合、上記「取材申込書」にてご登録の上、JT-60制御棟ロビーに集合して下さい。

文部科学省 研究開発局 研究開発戦略官付  
高木宛  
FAX : 03-6734-4164

## 第4回 ITER理事会 取材申込書

以下のとおり取材を申し込みます。

所属機関	
氏名	
連絡先	
取材 ※取材を希望するものに 「○」を記入してください	理事会開会挨拶の撮影（6月17日）
	プレスブリーフィング（6月18日、撮影可）
	サイトツアーの撮影（6月18日）

### 【理事会頭撮り（開会挨拶）】

- ※ 当日9:45までにホテルテラスザガーデン水戸3階「シーブリーズ」ラウンジ前に集合してください。
- ※ 撮影に当たっては、社名入り腕章を着用し、係員の指示に従ってください。

### 【プレスブリーフィング（16:30開始メド）】

- ※ ホテルテラスザガーデン水戸5階「ローズウッド」に集合してください。
- ※ 社名入り腕章を着用し、係員の指示に従ってください。

### 【サイトツアー】

- ※ 原子力機構那珂核融合研究所へは15:30頃到着予定ですが、当日の交通事情等により、時間に変更になる場合があります。到着時間については、原子力機構那珂核融合研究所（電話：029-270-7214）にご確認下さい。
- ※ 撮影に当たっては、社名入り腕章を着用し、係員の指示に従ってください。

(参 考)

## ITER理事会について

ITER計画は、核融合エネルギーの実現を目指し、日本、欧州、米国、ロシア、中国、韓国、インドの7極の協力の下に、国際熱核融合実験炉（ITER；イーター）の建設・運転を行う国際共同プロジェクトである。

ITER理事会は、ITER加盟極の代表（各極4名ずつ）で構成される。ITER機構の活動の促進、全般的な指導及び監督について、責任を負い、ITER協定<sup>(※)</sup>に従って、いかなる問題又は事項についても決定及び勧告を行うことができるITER計画の最高意志決定機関である。

(※) 正式名称；イーター事業の共同による実施のためのイーター国際核融合エネルギー機構の設立に関する協定

### ○ITER計画に関するこれまでの経緯

H18年11月 ITER協定署名（フランス・パリ）

— ITER協定の暫定適用

第1回暫定ITER理事会（フランス・パリ）

H19年7月 第2回暫定ITER理事会（日本・東京）

H19年10月 ITER協定発効

— ITER機構正式発足

— ITER機構に調達機器の納入等貢献を行う日本の国内機関として日本原子力研究開発機構（JAEA）を指定

H19年11月 第1回ITER理事会（フランス・カダラッシュ）

— 池田ITER機構長、ホルトキャンプ首席副機構長正式就任

— JAEAは他極に先駆けてITER機構とITER用超伝導導体の調達取決めを締結

H20年1月 ITER機構がフランス政府にITER施設建設認可を申請

H20年6月 第2回ITER理事会（日本・青森市）

H20年11月 第3回ITER理事会（フランス・カダラッシュ）

H21年5月 ITERサイト地盤整備完了